

ふくおかの経済

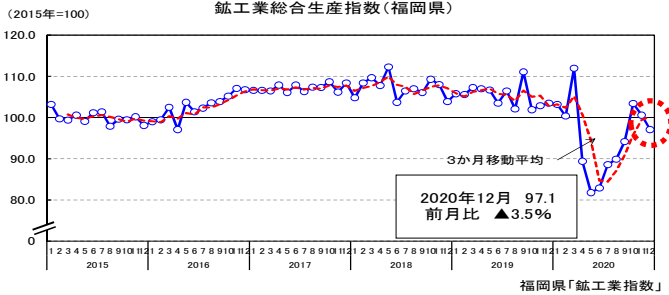
令和3年2月号



生産

持ち直している。

12月の生産指数は、輸送機械工業などの低下により2か月連続で前月を下回ったものの、3ヶ月移動平均値は、5か月連続で前月を上回っています。

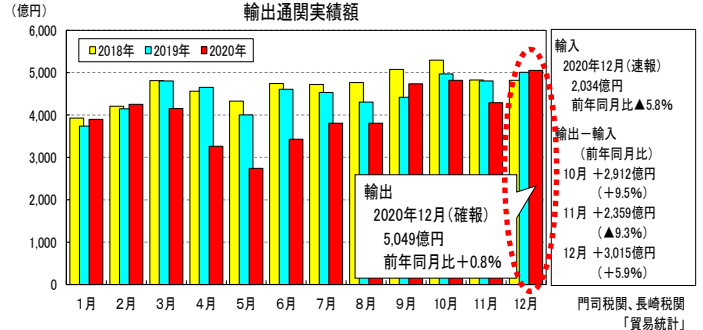


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出は、持ち直している。
輸入は、おおむね横ばいとなっている。

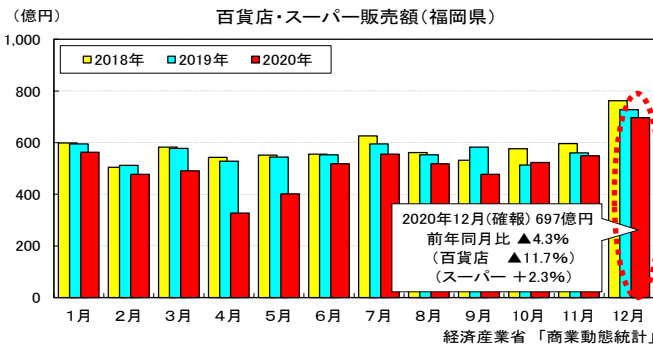
12月の輸出は、前年同月比+0.8%と3か月ぶりに前年を上回りました。



消費

持ち直しの動きが緩やかになっている。

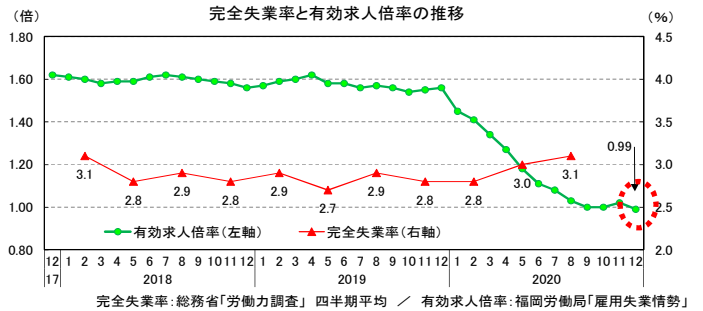
12月の百貨店・スーパー販売額は、新型コロナウイルス感染症の影響などから、2か月連続で前年を下回りました。



雇用

求人が減少するとともに、求職が増加しており、厳しさがみられる。

12月の有効求人倍率は0.99倍で、前月を0.03ポイント下回りました。



「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。
1.00倍より大きいと、人手不足を表します。

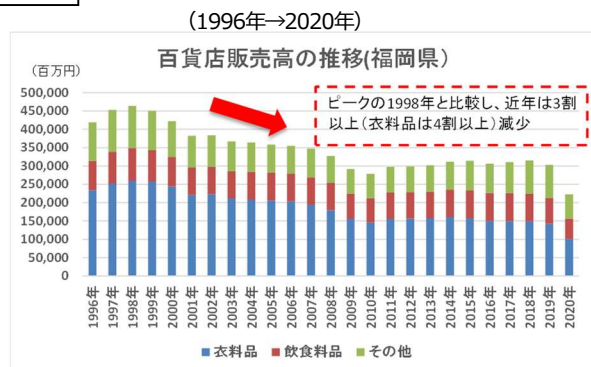
今月のピックアップ 百貨店販売高の変化

〇今回は百貨店について見ていきます。福岡県内の百貨店販売高の推移を見ると、近年の販売額は、90年代と比較すると大きく減少していることがわかります(図表1)。インバウンド需要の増加に下支えされた時期もありますが、退潮傾向は続いている状態です。

〇主な要因は、売上の多くを占める衣料品の売上減少で、近年は1998年と比較して4割以上減少しています。衣料品の購入状況についてみると、カジュアル化やファストファッションの浸透等により、購入先が百貨店から量販専門店などへ流れているという状況が見取れ(図2)、百貨店における売上減少の要因となっています。

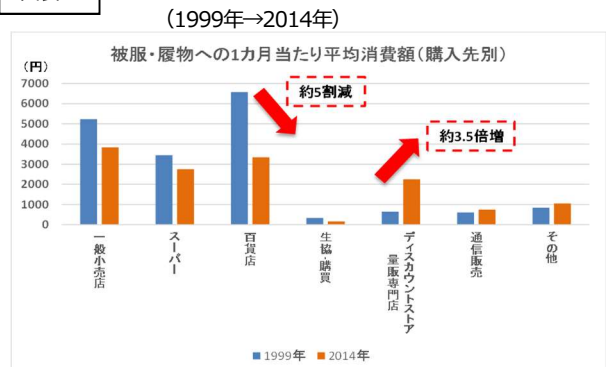
〇2020年は、コロナウイルスの影響でインバウンド需要が蒸発したことや、外出の減少で衣料品自体が売れない等、厳しい状況となりましたが、百貨店各社において富裕層向けにオンラインで商品提案を行う「デジタル外商」やインターネット通販の強化、体験型の売場を作るなど様々な動きがあり、今後の動向が注目されます。

図表1 福岡県の百貨店販売高(商品別)の推移



出所: 経済産業省「商業動態統計」

図表2 衣料品への平均消費額の変化



出所: 総務省統計局「全国消費実態調査」